

「プロボノ活動」で、セカンドキャリアも、新たな販路も見えてきた②

改正「高齢者雇用安定法」が示した「新しい働き方」の選択肢

改正「高齢者雇用安定法」が今年4月に施行され、全ての企業に70歳までの就業機会の確保（努力義務）が求められる時代となった。新たな法律では、これまでの「定年延長・定年廃止・継続雇用」に加えて、「業務委託」「社会貢献事業」が準備された。このことは、働き方の多様化を国が支援していく動きとして、定年後研究所も注目している。

先月号より引き続き「プロボノ」は、自らの知識・スキルを活かして社会貢献するボランティア活動であり、その具体事例を紹介していく。

たんかん生産者を囲んで、白熱した「プロボノ」販売戦略会議

たんかんを生産する奄美サンファームの戸田敏博さんを囲んで、大手企業の会社員6名で「チームたんかん」が結成されたのは2021年2月。それ以降、4月まで毎週1回就業時間後にオンラインで、白熱の販売戦略会議が展開された。

戸田さんは「回を重ねるごとにメンバーが積極的に発言して、会社員として培われた見識・胆力や人的ネットワークに圧倒された」と当時を振り返る。その後、大手スーパーの試食に繋がり、なんと現在で

は正式契約に向けて交渉中と聞く。



奄美サンファームの光景と戸田敏博さん

プロボノ活動を通じて得られたものは？

大手医薬品MRの池田頼彦さんは「幅広い年齢層のメンバーの意見を集約する難しさを体験できた。自分を客観的に見つめ直すとても貴重な機会となり、今後のキャリア人生にいかしていきたい」と語る。

大手マスコミ勤務の井上律さんは「初体験だったモノを売る経験や、たんかんチームの仲間との会話を通して、自分の隠れた力に気付くことができた。今後のセカンドキャリアを描くうえでの参考にしたい」と述懐する。

「越境体験」が、お二人の今後のキャリアデザインに大きく影響を与えたようだ。

今回の「プロボノ」を企画したエッセンス株式会社（島崎由真さん）は「プロボノのような越境体験が会社員のセカンドキャリアをイメージする機会として、今後益々注目されると感じている」と話す。

70歳を展望する会社員のキャリア人生の充実と、全国の中小企業・団体の事業発展が、まさに重なり合いながら進むことを、定年後研究所も願ってやまない。

池口武志（いけぐち・たけし）

一般社団法人定年後研究所 理事 所長

1963年生まれ。1986年日本生命保険相互会社入社。現在、株式会社星とビジネスリンク取締役常務執行役員、キャリアコンサルタント（国家資格）としても活動中。



一般社団法人定年後研究所

人生100年時代の中で、中高年社員のセカンドキャリアの充実に向けた調査活動を展開中。定年前後からの自走人生にチャレンジする会社員と、それをサポートする企業を応援。当記事へのご意見・感想を、ポータルサイト <https://www.teinengo-lab.or.jp>「お問い合わせ」にお寄せください。